

第 61 回兵庫県献血推進協議会資料

日 時 令和 7 年 3 月 4 日（火）
午後 1 時 30 分から

場 所 兵庫県薬剤師会館 4 階会議室

兵庫県保健医療部薬務課

目 次

<報告事項>

I 献血者数等の状況について	・ ・ ・ P2
II 年代別献血状況について	・ ・ ・ P5
III 献血普及啓発事業等の実施状況について	・ ・ ・ P7
IV 血液製剤の適正使用等の推進状況について	・ ・ ・ P10
V 造血幹細胞移植の普及啓発事業の推進等について	・ ・ ・ P12

<協議事項>

令和7年度兵庫県献血等推進計画（案）	・ ・ ・ P28
--------------------	-----------

《 報 告 事 項 》

I 献血者数等の状況について

1 令和5年度における献血者数等の状況

(1) 献血受付者と献血者数

	年間計画	実 績	目標達成率	R4 年度実績	R4 年度比
受付者数	233,700 人	234,236 人	100.2%	238,690 人	98.1%
献血者数	207,075 人	210,885 人	101.8%	214,880 人	98.1%

出典：令和5年度兵庫県献血等推進計画、血液事業年度報(日本赤十字社)

(2) 献血方法別献血者数

	年間計画	実 績	目標達成率	R4 年度実績	R4 年度比
200mL 献血	4,128 人	5,299 人	128.4%	5,404 人	98.1%
400mL 献血	145,952 人	146,968 人	100.7%	147,160 人	99.9%
血漿成分献血	34,971 人	34,701 人	99.2%	38,249 人	90.7%
血小板成分献血	22,024 人	23,917 人	108.6%	24,067 人	99.4%
献血量(推計)	91,038 L	92,286 L	101.4%	94,579 L	97.6%

出典：令和5年度兵庫県献血等推進計画、血液事業年度報(日本赤十字社)

2 令和6年度12月末における献血者数等の状況

(1) 献血受付者と献血者数

	年間計画	実 績	目標達成率	R5 年 12 月末 実績	R5 年度 同期比
受付者数	233,800 人	176,278 人	75.4%	175,745 人	100.3%
献血者数	207,499 人	157,701 人	76.0%	157,838 人	99.9%

出典：令和6年度兵庫県献血等推進計画、兵庫県赤十字血液センター調べ

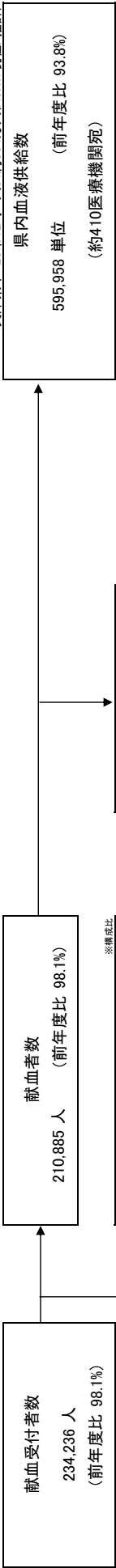
(2) 献血方法別献血者数

	年間計画	実 績	目標達成率	R4 年 12 月末 実績	R4 年度 同期比
200mL 献血	3,375 人	3,210 人	95.1%	4,129 人	77.7%
400mL 献血	146,052 人	109,796 人	75.2%	109,756 人	100.0%
血漿成分献血	35,706 人	27,703 人	77.6%	25,777 人	107.5%
血小板成分献血	22,366 人	16,992 人	76.0%	18,176 人	93.5%
献血量(推計)	91,721 L	69,620 L	75.9%	68,958 L	101.0%

出典：令和6年度兵庫県献血等推進計画、兵庫県赤十字血液センター調べ

令和5年度兵庫県献血状況(献血から供給まで)

兵庫県下=29市12町 人口約534万人(R6.4.1現在/推計)



※構成比			
男性 147,420 (69.9%)	400mL 献血 106,722 (72.4%)	200mL 献血 561 (0.4%)	成分献血 40,137 (27.2%)
女性 63,465 (30.1%)	400mL 献血 40,246 (63.4%)	200mL 献血 4,738 (7.5%)	成分献血 18,481 (29.1%)
献血者内訳			
400mL 献血 146,968 (69.7%)			
200mL 献血 5,299 (2.5%)			
血漿成分献血 34,701			
血小板成分献血 23,917			
(成分献血計 58,618) 27.8%			

検査不合格数 2,903 人 (献血者数の 1.4%)

※対献血者数比	
梅毒	202 0.10%
HBs抗原	34 0.02%
HBc抗体	298 0.14%
HCV抗体	79 0.04%
肝機能	1,593 0.76%
不規則抗体	121 0.06%
HTLV-I	236 0.11%
その他	391 0.19%
重複あり	

施設 種別	400mL	200mL	成分	合計
兵庫バス	34,296	1,605	0	35,901
豊岡バス	8,343	186	0	8,529
三宮出張所	20,163	568	20,934	41,665
三宮センター街出張所	20,309	1,151	4,670	26,130
新長田出張所	3,473	151	6,216	9,840
西宮出張所	13,379	440	6,255	20,074
明石出張所	1,723	22	347	2,092
尼崎出張所	7,692	232	9,231	17,155
姫路バス	23,066	531	0	23,597
姫路駅前通出張所	14,524	413	10,965	25,902
合計	146,968	5,299	58,618	210,885

献血できなかった人数 23,351 人 (10.0%) (前年度比 98.1%)
--

※構成比	
男性 147,420 (69.9%)	
女性 63,465 (30.1%)	

製剤・区分	400mL(本)	200mL(本)	成分(本)	単位換算合計	前年度比	構成比
全血	0	0		0		0.0%
赤血球	113,871	4,761		232,503	96.4%	39.0%
血漿	31,537	411	5,855	86,905	96.2%	14.6%
血小板			27,615	276,550	92.9%	46.4%
計	145,408	5,172	33,470	595,958	94.7%	
前年度比	97.1%	93.3%	92.6%			
単位換算	290,816	5,172	299,970			
構成比	48.8%	0.9%	50.3%			

※平成31年4月より丹波市および丹波篠山市内の医療機関への輸血用血液製剤供給業務を京都府赤十字血液センターに移管。供給数は京都府赤十字血液センターからの供給分を含む。

2 献血場所・回数別の献血の状況等

(1) 献血場所別献血者数

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度12月末	
	献血者 (人)	構成比	献血者 (人)	構成比	献血者 (人)	構成比	献血者 (人)	構成比	献血者 (人)	構成比
献血バス	71,599	33.0%	67,800	31.3%	64,907	30.2%	67,156	31.8%	50,475	32.0%
ルーム	144,366	66.5%	147,933	68.3%	149,113	69.4%	142,858	67.7%	106,515	67.5%
オープン	1,168	0.5%	834	0.4%	860	0.4%	871	0.4%	711	0.5%
合 計	217,093	100.0%	216,567	100.0%	214,880	100.0%	210,885	100.0%	157,701	100.0%

出典：血液事業年度報(日本赤十字社)、兵庫県赤十字血液センター調べ

(2) 令和5年度献血回数別献血者数

	献血バス	ルーム	オープン	人数計
1回	34,677人	34,057人	795人	69,529人
2回	11,680人	14,578人	38人	26,296人
3回	3,013人	8,433人	0人	11,446人
4回以上	20人	6,760人	0人	6,780人

出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

(3) 令和5年度新規・再来別献血者

	献血者数	新規献血者数	再来献血者数
人 数	210,885人	10,802人	200,083人
構成比	100.0%	5.1%	94.9%

出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

(4) 献血ができなかった人数の理由別推移

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度12月末	
	人数 (人)	構成比	人数 (人)	構成比	人数 (人)	構成比	人数 (人)	構成比	人数 (人)	構成比
血色素	14,874	53.5%	10,923	45.8%	10,180	42.8%	9,890	42.4%	8,649	46.6%
血圧	1,904	6.8%	1,706	7.2%	1,667	7.0%	1,612	6.9%	1,178	6.3%
服薬	1,248	4.5%	1,278	5.4%	1,385	5.8%	1,676	7.2%	1,327	7.1%
問診等その他	9,797	35.2%	9,950	41.7%	10,578	44.4%	10,173	43.5%	7,423	40.0%
合計	27,823	100.0%	23,857	100.0%	23,810	100.0%	23,351	100.0%	18,577	100.0%

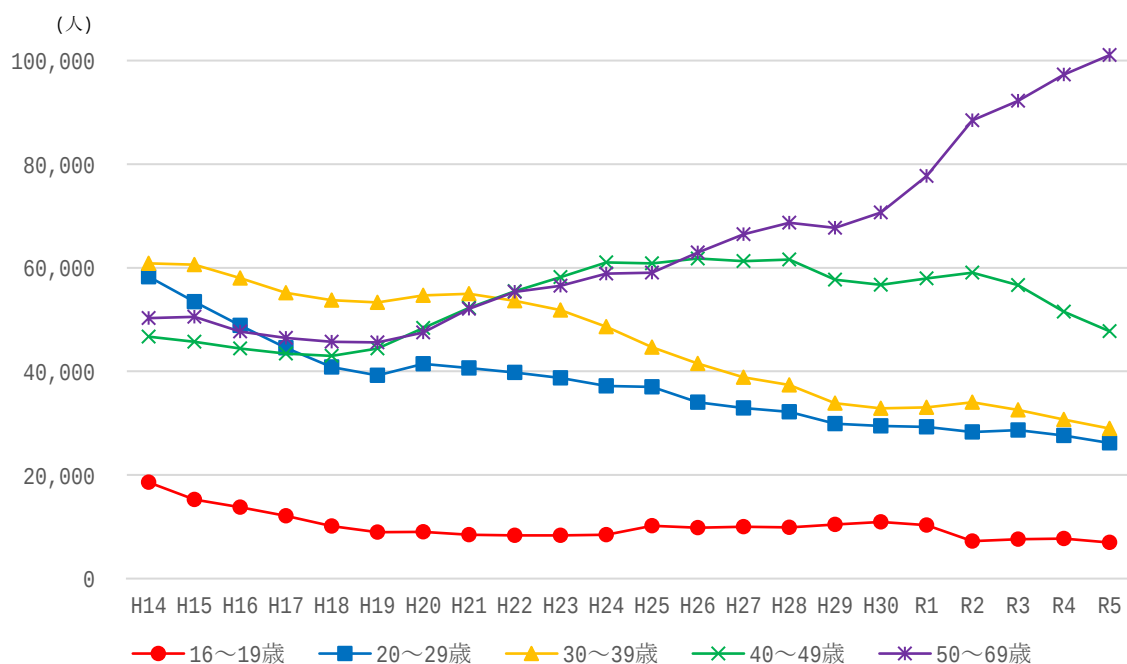
※ 構成比は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にならない。

※ 「問診等その他」は、B型・C型肝炎ウイルス、ヒト免疫不全ウイルスの持続保有者、欧州での長期滞在経験者、海外旅行直後の者及び体重不足などである。

出典：血液事業年度報(日本赤十字社)、兵庫県赤十字血液センター調べ

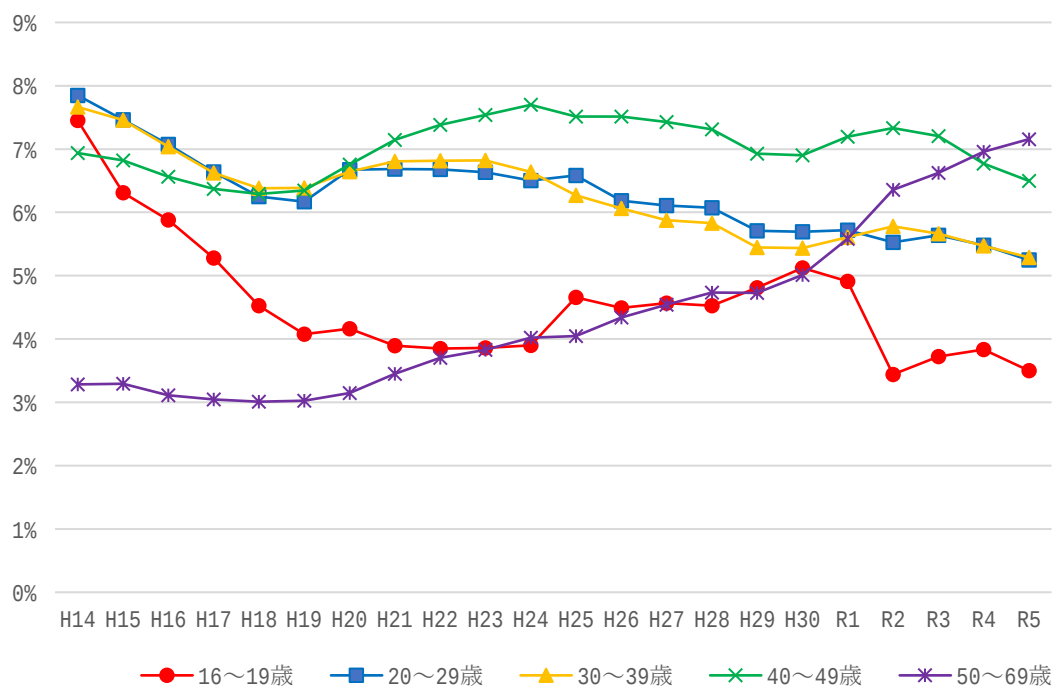
Ⅱ 年代別献血状況について

1 県内の年代別献血者数の推移



血液事業年報（日本赤十字社）から作成

2 県内の年代別献血率の推移



血液事業年報（日本赤十字社）と住民基本台帳から作成

3 令和5年度年代別献血者数等

	16～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～69 歳	合計
200mL 献血	1,824	1,216	449	547	1,263	5,299
400mL 献血	4,640	20,024	21,385	33,727	67,192	146,968
血漿成分献血	347	3,383	4,120	7,386	19,465	34,701
血小板成分献血	145	1,554	3,016	6,085	13,117	23,917
献血者数	6,956	26,177	28,970	47,745	101,037	210,885
構成比	3.3%	12.4%	13.7%	22.6%	47.9%	
年代別献血率	3.4%	4.9%	5.1%	6.4%	7.0%	

※ 構成比は端数処理しているため、合計が必ずしも 100%にならない。

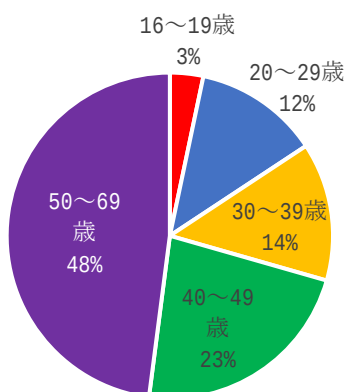
出典：令和5年度兵庫県献血等推進計画、血液事業年度報(日本赤十字社)、兵庫県赤十字血液センター調べ

4 献血推進に係る中期目標、年代別献血者数目標との比較

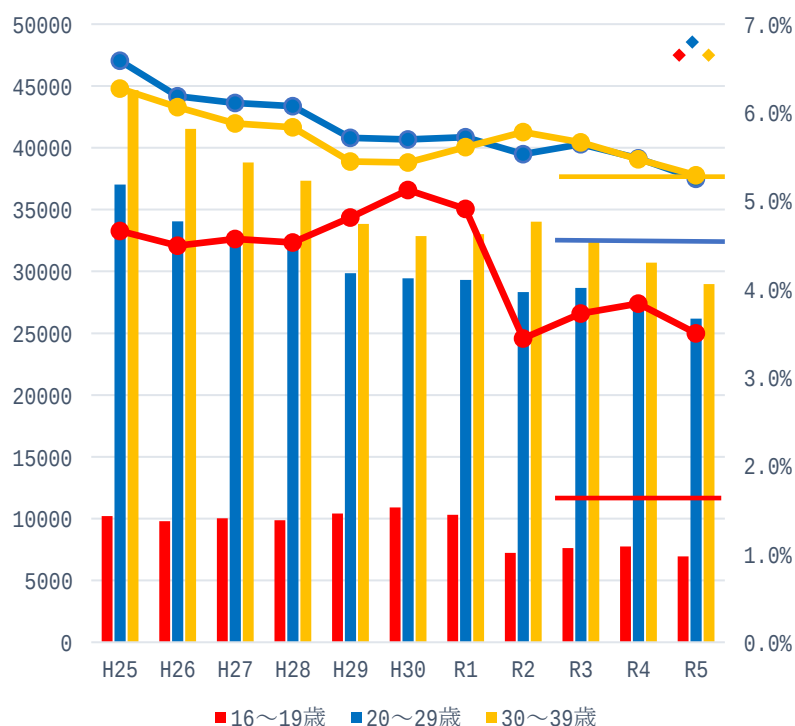
	16～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～69 歳
国献血推進 2025(R7)中期目標献血率	6.6%	6.8%	6.6%		
県年代別献血者数(R5)目標 (A)	11,705 人	32,518 人	37,715 人		
県年代別献血者数(R5)実績 (B)	6,956 人	26,177 人	28,970 人	47,745 人	101,037 人
県年代別献血率(R5)実績	3.4%	4.9%	5.1%	6.4%	7.0%
目標対する実績比(R5) (B)/(A)	59.4%	80.5%	76.8%		

出典：令和5年度兵庫県献血等推進計画、血液事業年度報(日本赤十字社)

令和5年度年代別献血者
構成比



献血推進に係る中期目標、年代別献血者数目標との比較



Ⅲ 献血普及啓発事業等の実施状況について

1 献血推進キャンペーンの実施

(1) 愛の血液助け合い運動（7月：全国一斉）

- ・ 市町、公共施設等における啓発ポスター等の一斉掲示
- ・ 県、市町の広報誌等による広報活動の実施

(2) はたちの献血キャンペーン（1～2月：全国一斉）

- ・ 市町、公共施設等における啓発ポスター等の一斉掲示
- ・ 各市町における広報誌等による広報活動の実施

2 大学生ボランティア献血推進イベント事業

兵庫県学生献血推進協議会が中心となって企画したイベントを県内各地で実施。

【令和5年度に実施した主なイベント】

活動日	イベント名	実施場所
8月6日	サマーキャンペーン	にしきた献血ルーム
10月1日	オータムキャンペーン	三宮センタープラザ minamo 献血ルーム
12月17日	全国学生クリスマス献血キャンペーン	姫路みゆき献血ルーム
2月4日	神奈川県学生献血推進協議会合同キャンペーン	ミント神戸 15 献血ルーム
3月3日	近畿統一キャンペーン（予定）	三宮センタープラザ minamo 献血ルーム

出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

【令和6年度に実施した主なイベント】

活動日	イベント名	実施場所
8月10日	サマーキャンペーン	ミント神戸 15 献血ルーム
12月7日	全国学生クリスマス献血キャンペーン	西神プレシティ中央広場
12月14日	全国学生クリスマス献血キャンペーン	姫路みゆき献血ルーム
2月23日	和歌山県学生献血推進協議会 合同キャンペーン	塚口さんさんタウン献血ルーム
3月2日	近畿統一キャンペーン（予定）	ミント神戸 15 献血ルーム 三宮センタープラザ minamo 献血ルーム

出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

3 若年層に対する献血普及啓発

(1) 高校生献血推進ボランティア事業

- ・ 主に文化祭の場を活用し、献血啓発コーナーの設置やパネル展示等の啓発活動を行う。
- ・ 同年代の生徒からの呼びかけにより、高校生の献血への理解を図る。
- ・ 令和5年度は5校、6年度は6校実施

【令和5年度実施校】

県立尼崎高校、県立福崎高校、県立播磨南高校、県立日高高校、市川高校

※ 県立芦屋国際中等教育学校で県主催のパネル展示を実施

【令和 6 年度実施校】

県立福崎高校、県立播磨南高校、県立日高高校、県立淡路三原高等学校、市川高校、神崎高等学校

※ 県立芦屋国際中等教育学校で県主催のパネル展示を実施

(2) 献血セミナー

- ・ 兵庫県赤十字血液センター職員が講師となり、献血を通じた命の大切さ等を伝える出前講座を実施。

	令和 5 年度	令和 6 年度 (12 月末)
小学校	7 校	7 校
中学校	8 校	10 校
高等学校	21 校	27 校
大学・専門学校	8 校	14 校
企業・団体等	11 校	12 件

※校数は延べ数 出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

(3) 高校生・大学生献血の推進

高等学校・大学等に献血バスを配車し献血を実施。

	令和 5 年度	令和 6 年度 (12 月末)
高等学校	18 校	13 校
大学・専門学校	29 校	60 校

※校数は延べ数 出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

(4) 広報媒体を用いた広報

ア Web サイト

兵庫県、兵庫県赤十字血液センター、各市町のホームページで随時情報提供

イ SNS の活用

兵庫県赤十字血液センターにおいて、X・Instagram による情報発信を実施

(5) 複数回献血の推進

日本赤十字社では、平成 18 年に「複数回献血クラブ」を設立し、継続的に献血に協力いただける方を募集してきた。

平成 30 年 10 月に、献血者へのサービス向上を目的として、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」へとリニューアルし、令和 4 年 9 月には「ラブラッド」のアプリが新たにリリースされた。

	令和 5 年度	令和 6 年 12 月現在
登録会員数※	15,974	12,636

※ ラブラッドで兵庫県を献血地域に選択している会員数

(6) 献血功労者に対する顕彰

ア 表彰・感謝状の贈呈（令和6年度実績）

- | | |
|---------------------|-------|
| ・ 厚生労働大臣表彰受賞者 | 3 団体 |
| ・ 厚生労働大臣感謝受賞者 | 9 団体 |
| ・ 兵庫県献血推進協議会長感謝状受賞者 | 13 団体 |

イ 選考基準

(7) 厚生労働大臣表彰

20 年以上にわたり組織的に献血に協力し、かつ、成分献血・400mL 献血に積極的に協力している団体

(イ) 厚生労働大臣感謝

10 年以上にわたり組織的に献血に協力している団体

(ウ) 兵庫県献血推進協議会長感謝

① 8 年以上にわたり県内で献血に協力し。下記に該当する団体

- a 当該団体に属する献血者が毎年概ね 50 人以上。
- b 成分献血、400mL 献血に積極的に協力し、また、血液確保が難しい時期等に積極的に協力している。
- c 高等学校については、一年間の献血者数が概ね 30 人以上。

② 献血運動普及のための広報活動等を 10 年以上、継続的かつ積極的に実施している団体又は個人

Ⅳ 血液製剤の適正使用等の推進状況について

血液製剤の適正使用等の推進のために、輸血療法の専門家で構成する兵庫県合同輸血療法委員会（事務局：兵庫県赤十字血液センター）と連携し、県内医療機関の輸血従事者を対象に研修会を開催するなど。安全かつ適正な輸血療法の推進と血液製剤の適正使用等の推進を図っている。

1 令和6年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業

(1) 研究課題名

在宅輸血における遠隔輸液管理システムの開発及び小規模医療機関に対する輸血に関する質問対応窓口の試行的設置について

(2) 研究目的

高齢患者や頻繁に通院が困難な輸血を要する患者にとって、在宅輸血のメリットは大きい。しかし、輸血などの点滴の管理は、病棟とは違い常に医療者が付き添っているわけでない。在宅輸血の手順として、輸血開始時に点滴速度を調整して、終了予定時に合わせて、訪問看護師が患者宅を訪問する運用をしているが、トイレ移動や体の向きなどで点滴の流速が途中で変化し、大幅に終了時間がずれることがある。また、場合によっては、滴下が止まってしまうことがある。多忙なスケジュールで動いている訪問看護師にとって、点滴終了時間のずれは、前後の訪問予定にも影響するため、正確な点滴終了時間が遠隔でリアルタイムで把握可能で、滴下不良を検出できることは、訪問看護の効率化と安全な輸血に有用である。

本研究では、まず在宅での輸血管理を遠隔でモニターし、輸血の滴下不良の検出や輸血終了時間を推測するシステムを開発・活用することを目的とする。そして、このシステム構築を通して訪問看護師の患者訪問の効率化や輸血の安全性の保障に寄与するかどうかを検証することを目的とする。

2 兵庫県合同輸血療法委員会の開催

兵庫県合同輸血療法委員会で、兵庫県内の医療機関における適切な輸血療法実施体制の確立と血液製剤の使用適正化に向けた協議及び課題把握を行い、血液製剤使用適正化方策調査研究事業の内容を協議・決定した。

3 兵庫県輸血医療従事者研修会の実施（令和6年11月9日開催）

医療機関における輸血療法実施体制の確立と血液製剤の適正使用等を推進するため、兵庫県合同輸血療法委員会、兵庫県、兵庫県赤十字血液センターが共同で、県内の輸血医療従事者に研修会を開催した（詳細は P11 参照）。

令和6年度兵庫県合同輸血医療従事者研修会の概要

1 日時 令和6年11月9日(土) 午後1時～3時40分

2 場所 Microsoft Teamsを利用した配信

3 主催(共催)

兵庫県合同輸血療法委員会、兵庫県赤十字血液センター、兵庫県、一般社団法人日本輸血・細胞治療学会近畿支部

4 後援

一般社団法人兵庫県医師会、一般社団法人兵庫県病院協会、一般社団法人兵庫県民間病院協会、公益社団法人兵庫県臨床検査技師会、公益社団法人兵庫県看護協会、一般社団法人兵庫県病院薬剤師会

5 参加者 県内輸血医療従事者145名

6 内容

(1) 血液製剤の使用実態について

兵庫県保健医療部薬務課

(2) 兵庫県赤十字血液センターからの情報提供

兵庫県赤十字血液センター

(3) 兵庫県合同輸血療法委員会活動報告

・兵庫県合同輸血療法委員会

「令和5年度「在宅輸血の実態に関するアンケート調査」の結果報告」

北播磨総合医療センター 血液腫瘍内科部長

杉本 健 先生

・臨床検査技師ワーキンググループ

「小規模医療機関に対する輸血に関する質問対応窓口の試行的設置について」

社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院 診療技術部

松谷 卓周 先生

・看護師ワーキンググループ

「H大学病院における輸血療法の看護」

兵庫医科大学病院 看護部

植村 綾香 先生

(4) 講演「輸血用血液製剤の適正使用

ー輸血機能評価認定(I&A)と病院機能評価等についてー」

座長：神戸学院大学栄養学部臨床検査学専攻 准教授 坊池 義浩 先生

演者：医療法人社団 誠心会 浜北さくら台病院 医療の質向上室長

日本輸血・細胞治療学会 I&A 企画委員会 委員長

飛田 規 先生

V 造血幹細胞移植の普及啓発事業の推進等について

1 全国の骨髄バンク事業の状況

(1) 骨髄移植希望者（患者数）登録者数（令和6年12月末現在）

ア 都道府県別登録状況

都道府県名	累計登録	現在登録
北海道	2,636	38
青森県	412	13
秋田県	371	12
岩手県	442	10
宮城県	921	29
山形県	411	13
福島県	766	23
茨城県	1,147	23
栃木県	925	19
群馬県	867	20
埼玉県	3,252	81
千葉県	2,739	63
東京都	5,803	132
神奈川県	3,514	76
新潟県	800	11
山梨県	339	4
長野県	970	21
富山県	552	9
石川県	592	9
福井県	309	5
岐阜県	807	9
静岡県	1,484	34
愛知県	3,430	63
三重県	773	15
滋賀県	634	15
京都府	1,288	29
大阪府	4,293	111
兵庫県	2,411	54
奈良県	618	10
和歌山県	526	7
鳥取県	320	0
島根県	473	5
岡山県	956	20
広島県	1,301	8
山口県	476	6
徳島県	354	15
香川県	577	14
愛媛県	648	10
高知県	354	4
福岡県	2,630	54
佐賀県	325	3
長崎県	462	7
熊本県	578	9
大分県	699	11
宮崎県	525	10
鹿児島県	856	14
沖縄県	496	11
国内合計	56,062	1,159
海外	14,307	552
合計	70,369	1,711

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

イ 年齢別登録状況

年 齢	累計登録数			現在登録数		
	国内	海外	合計	国内	海外	合計
0～5歳	2,836	1,340	4,176	51	25	76
6～15歳	4,961	2,053	7,014	70	60	130
16～25歳	6,240	2,019	8,259	69	39	108
26～35歳	6,887	2,023	8,910	82	57	139
36～45歳	9,098	2,151	11,249	136	50	186
46～55歳	11,044	2,252	13,296	238	89	327
56～65歳	12,296	1,886	14,182	365	131	496
66歳以上	2,700	583	3,283	148	101	249
合計	56,062	14,307	70,369	1,159	552	1,711

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

ウ 疾患別登録状況

疾患名	累計登録数			現在登録数		
	国内	海外	合計	国内	海外	合計
急性骨髄性白血病	18,512	4,692	23,204	410	211	621
急性リンパ性白血病	10,970	2,865	13,835	204	70	274
慢性骨髄性白血病	3,483	964	4,447	26	13	39
骨髄異形成症候群	8,928	1,626	10,554	247	103	350
その他の白血病	2,469	141	2,610	41	2	43
骨髄増殖性疾患(MPD)	744	285	1,029	21	26	47
リンパ系悪性腫瘍(LBL含む)	5,618	1,174	6,792	82	48	130
※形質細胞性腫瘍	639	212	851	3	1	4
固形腫瘍	29	17	46	0	0	0
再生不良性貧血	2,976	1,410	4,386	68	37	105
発作性夜間血色素尿症(PNH)	27	31	58	4	1	5
先天性造血障害	197	326	523	11	24	35
EBV感染関連	349	7	356	7	1	8
血球貪食症候群(HPS),(LCH)	139	123	262	2	4	6
先天性代謝異常	269	92	361	6	2	8
原発性免疫不全症	541	294	835	13	7	20
その他	172	48	220	14	2	16
合計	56,062	14,307	70,369	1,159	552	1,711

※登録疾患の表示方法が変更となり、これまでの多発性骨髄腫を形質細胞性腫瘍と表示しています。

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

エ 移植希望者数の推移（各年12月末）

	令和2年
--	------

(2) 骨髄提供希望者（ドナー）登録者数

月	令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		令和6年	
	月間	登録者数	月間	登録者数	月間	登録者数	月間	登録者数	月間	登録者数
1月	3,293	528,119	2,712	529,708	2,452	538,435	2,582	543,821	3,072	553,446
2月	2,989	529,088	2,431	530,326	2,095	538,181	2,647	544,334	2,654	553,895
3月	3,103	529,965	2,557	530,953	2,483	537,820	2,287	544,305	2,544	554,123
4月	873	528,797	2,892	532,030	2,930	538,098	3,358	545,422	3,486	555,442
5月	782	527,793	2,671	533,074	2,798	538,501	2,772	545,870	3,026	556,160
6月	1,562	527,482	2,492	533,894	2,673	539,017	2,948	546,679	3,091	557,148
7月	2,392	527,924	2,860	533,938	3,243	539,855	2,985	547,318	2,950	557,805
8月	2,667	528,586	2,618	534,659	2,822	540,451	2,671	547,708	2,599	558,241
9月	2,516	529,069	2,449	535,370	2,862	541,220	3,225	548,691	2,828	558,988
10月	3,116	530,157	2,984	536,642	3,840	542,926	3,990	550,559	4,878	561,673
11月	2,876	531,010	3,254	538,163	3,072	543,957	3,772	552,309	3,478	563,116
12月	2,734	529,140	3,121	538,618	2,751	543,694	3,121	552,810	2,735	562,867
新規	28,903		33,041		34,021		36,358		37,341	

※数値は速報値のため、前月および次月と異なる場合がある。

※「月間」は、新規登録者数を示す。

※「登録者数」は、登録を取り消しされた方の数を除いた現在有効登録者数を示す。

※「新規」は、新規登録者数の合計を示す。

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

(3) HLA 適合患者・ドナーの状況（令和6年12月末現在）

患者の状況		ドナーの状況	
患者登録数(累計)	70,369	登録受付ドナー数(累計)	988,165
患者登録現在数	1,711	ドナー登録現在数	562,867
(うち国内登録患者現在数)	1,159	HLA 適合報告ドナー数	392,554
HLA 適合患者数(累計)	55,974		

※ 患者登録現在数は、患者登録数(累計)から登録取消された患者数及び移植実施患者数を引いた数

※ HLA 適合とは、HLA 型の A 座・B 座・DR 座の 6 抗原のうち 5 抗原以上が一致あるいは非常に類似している抗原であることを指している。

※ HLA 適合報告ドナー数は複数回適合したドナーの数を差し引いた実適合ドナー数を示す。

出典：（公財）日本骨髄バンク

(4) 非血縁者間移植実施数

月	令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		令和6年	
	月間	移植数	月間	移植数	月間	移植数	月間	移植数	月間	移植数
1月	96	24,043	81	25,120	78	26,299	67	27,350	80	28,468
2月	104	24,147	97	25,217	83	26,382	79	27,429	100	28,568
3月	87	24,234	113	25,330	121	26,503	129	27,558	84	28,652
4月	89	24,323	104	25,434	87	26,590	91	27,649	91	28,743
5月	73	24,396	71	25,505	89	26,679	92	27,741	88	28,831
6月	81	24,477	116	25,621	107	26,786	118	27,859	79	28,910
7月	76	24,553	106	25,727	87	26,873	99	27,958	84	28,994
8月	79	24,632	100	25,827	84	26,957	77	28,035	91	29,085
9月	116	24,748	94	25,921	90	27,047	93	28,128	82	

(5) 骨髄ドナー 都道府県別登録者数（令和6年12月末現在）

	血液センター登録数			登録者数			登録対象年齢人口における登録者数	
	12月登録数	12月取消数	純増数				20～54歳 人口(千人) B	対象人口千人当り における登録者(人) A/B
				総数	18～19歳	20～54歳 A		
北海道	88	99	▲ 11	16,011	72	15,939	2,045	7.80
青森	61	50	▲ 11	10,857	118	10,739	455	23.58
秋田	4	16	▲ 12	2,473	5	2,468	326	7.56
岩手	12	20	▲ 8	3,053	5	3,048	444	6.87
宮城	75	104	▲ 29	19,476	84	19,392	960	20.20
山形	33	40	▲ 7	8,564	37	8,527	384	22.19
福島	69	82	▲ 13	14,052	80	13,972	702	19.89
茨城	35	56	▲ 21	8,117	39	8,078	1,202	6.72
栃木	19	95	▲ 76	17,056	34	17,022	807	21.09
群馬	74	40	▲ 34	7,468	169	7,299	798	9.15
埼玉	121	143	▲ 22	28,267	204	28,063	3,311	8.48
千葉	149	108	▲ 41	21,868	233	21,635	2,800	7.73
東京	369	419	▲ 50	71,738	592	71,146	6,911	10.30
神奈川	142	160	▲ 18	30,335	537	29,798	4,215	7.07
新潟	30	65	▲ 35	8,570	29	8,541	834	10.24
山梨	5	13	▲ 8	2,075	5	2,070	322	6.43
長野	21	26	▲ 5	5,261	14	5,247	799	6.57
富山	22	23	▲ 1	4,717	38	4,679	411	11.39
石川	19	23	▲ 4	4,577	41	4,536	459	9.88
福井	5	17	▲ 12	1,979	3	1,976	301	6.55
岐阜	64	30	▲ 34	6,618	130	6,488	800	8.11
静岡	51	62	▲ 11	9,230	28	9,202	1,483	6.20
愛知	88	120	▲ 32	21,490	150	21,340	3,401	6.27
三重	17	27	▲ 10	4,237	23	4,214	727	5.80
滋賀	58	46	▲ 12	8,454	125	8,329	609	13.67
京都	72	79	▲ 7	20,008	178	19,830	1,059	18.73
大阪	330	217	▲ 113	39,340	465	38,875	3,934	9.88
兵庫	134	108	▲ 26	20,620	224	20,396	2,282	8.94
奈良	48	23	▲ 25	5,756	46	5,710	521	10.96
和歌山	25	34	▲ 9	5,776	41	5,735	352	16.30
鳥取	8	15	▲ 7	2,661	58	2,603	208	12.53
島根	22	28	▲ 6	5,592	59	5,533	242	22.91
岡山	28	64	▲ 36	9,547	114	9,433	763	12.37
広島	78	57	▲ 21	11,287	97	11,190	1,148	9.75
山口	3	22	▲ 19	3,688	50	3,638	497	7.32
徳島	5	12	▲ 7	2,361	6	2,355	273	8.62
香川	38	19	▲ 19	4,402	20	4,382	383	11.44
愛媛	11	30	▲ 19	5,380	33	5,347	508	10.54
高知	21	12	▲ 9	4,173	47	4,126	252	16.38
福岡	54	116	▲ 62	23,536	125	23,411	2,181	10.73
佐賀	27	19	▲ 8	5,793	40	5,753	311	18.51
長崎	21	42	▲ 21	7,196	53	7,143	476	15.01
熊本	98	43	▲ 55	11,182	232	10,950	660	16.58

(6) 都道府県別移植患者・骨髄提供者数（令和6年12月末現在）

	患者居住地	移植数	提供者居住地	採取数
北海道	1,413	1,414	1,503	1,497
青森県	178	139	255	244
秋田県	200	201	171	195
岩手県	187	161	204	198
宮城県	392	407	624	723
山形県	219	176	240	177
福島県	376	261	418	366
茨城県	600	392	593	550
栃木県	490	551	567	449
群馬県	483	419	345	337
埼玉県	1,811	1,073	1,470	918
千葉県	1,376	936	1,267	1,103
東京都	2,998	5,169	3,129	4,470
神奈川県	1,762	1,467	1,956	1,559
新潟県	383	371	570	529
山梨県	193	70	159	137
長野県	548	491	398	387
富山県	292	296	273	265
石川県	315	362	354	442
福井県	160	56	193	115
岐阜県	385	108	454	159
静岡県	828	714	736	731
愛知県	1,710	2,353	1,695	2,035
三重県	378	242	361	317
滋賀県	345	242	390	265
京都府	678	829	879	903
大阪府	2,192	2,437	1,666	2,128
兵庫県	1,177	965	1,249	1,069
奈良県	294	241	312	225
和歌山県	271	201	252	183
鳥取県	177	168	181	205
島根県	259	220	303	278
岡山県	531	773	548	736
広島県	807	827	727	700
山口県	259	146	320	235
徳島県	199	183	160	148
香川県	320	223	234	192
愛媛県	409	422	284	310
高知県	203	134	177	133
福岡県	1,354	1,800	1,378	1,711
佐賀県	184	25	239	158
長崎県	249	180	270	258
熊本県	306	286	406	389
大分県	371	320	289	287
宮崎県	239	140	210	179
鹿児島県	382	371	311	341
沖縄県	236	157	516	300
国内合計	29,119	29,119	29,236	29,236
海外	299	299	204	204

※ 採取されたものの移植に至らなかった件数と翌月移植件数件が含まれているため、移植数と採取数は一致しない。

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

2 県内の骨髄バンク事業の状況

(1) 県内の骨髄ドナー登録受付者数と有効登録者数の年次推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度※
登録受付者数	844	1,061	1,092	1,320	964
有効登録者数	20,228	20,300	20,242	20,465	20,620
累計登録者数	33,237	34,298	35,390	36,710	37,674

※ 令和6年度は12月末までの速報値

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

(2) 令和6年の月別県内ドナー登録状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
登録 受付者数	67	129	62	113	58	117	96	70	100	206	70	134
有効 登録者数	20,471	20,495	20,465	20,496	20,457	20,491	20,488	20,465	20,483	20,598	20,594	20,620

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

(3) 非血縁者間移植等の直近10年間の実施状況（2014～2023年度）

		移植数	採取数
	神戸市立医療センター中央市民病院	93	63
	神戸大学医学部附属病院	69	109
	兵庫医科大学病院	27	100
	兵庫県立こども病院(採取免除認定施設)	57	—
	兵庫県立がんセンター	46	81
	社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院	26	35
	兵庫県立尼崎医療センター	38	21
	姫路赤十字病院(採取のみの認定施設)	0	18
	計	356	427
全国	計	11,920	12,085

※日本骨髄バンクを介したもの

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

3 臍帯血バンクの状況

(1) 各バンク別臍帯血保存公開状況（令和7年1月1日現在）

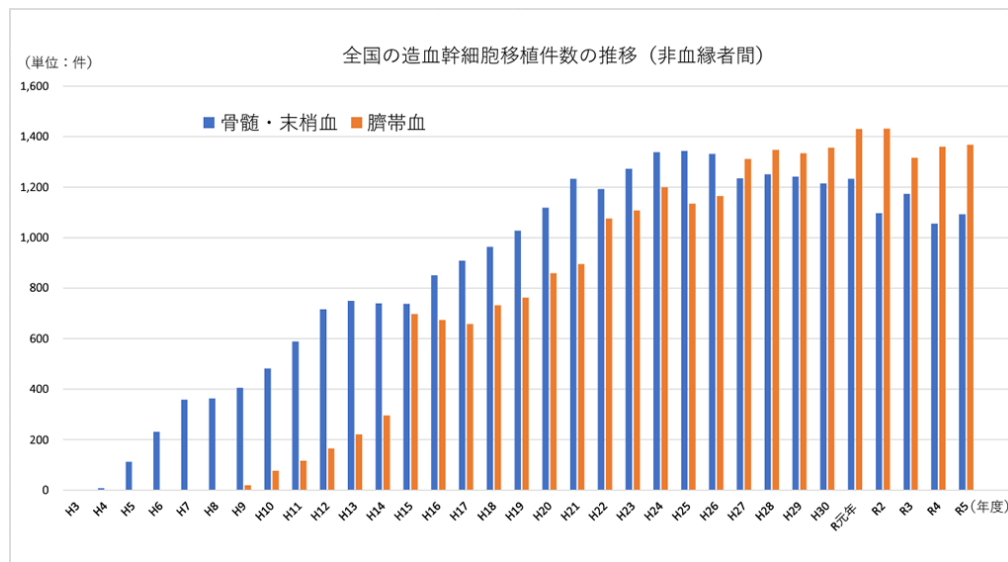
管理バンク名	公開本数
日本赤十字社北海道さい帯血バンク※1	1,229
日本赤十字社関東甲信越さい帯血バンク※2	3,516
中部さい帯血バンク	2,307
日本赤十字社近畿さい帯血バンク	1,244
兵庫さい帯血バンク	1,235
日本赤十字社九州さい帯血バンク※3	657
合 計	10,188

※1 宮城さい帯血バンク調整分を含む

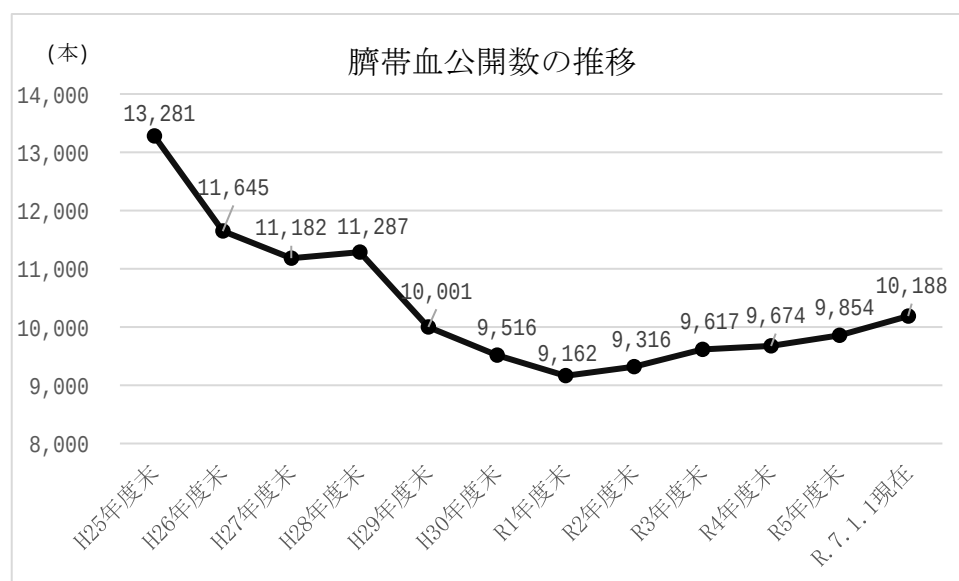
※2 東京臍帯血バンク、神奈川臍帯血バンク、東海大学さい帯血バンク調整分を含む

※3 中国四国臍帯血バンク調整分を含む

出典：造血幹細胞移植情報サービス



出典：認定 NPO 法人兵庫さい帯血バンク



出典：造血幹細胞移植情報サービス

(2) 各臍帯血バンクの移植に用いた臍帯血本数

<年度集計>

年	日赤北海道		日赤関東甲信越				中部	日赤近畿	兵庫	日赤九州		合計
	日赤北海道	宮城	東京	日赤関東甲信越	神奈川 ^{*1}	東海大学				中国四国	日赤九州	
1996年度	0	0	0	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	1
1997年度	0	0	0	0	6 (3)	4	5	0	4	0	0	19
1998年度	5	0	6	1	22 (16)	6	16	0	18	0	3	77
1999年度	21	0	29	8	19 (10)	8	17	0	10	0	5	117
2000年度	31	0	36	17	8 (5)	12	38	0	15	5	3	165
2001年度	47	0	42	4	5	34	31	0	44	7	7	221
2002年度	64	1	49	32	5	50	33	0	44	12	7	297
2003年度	116	5	109	121	19	127	57	6	102	30	13	705
2004年度	110	11	84	112	29	152	40	24	63	28	23	676
2005年度	57	14	115	104	29	104	33	49	90	36	27	658
2006年度	66	17	135	111	34	123	52	67	78	26	43	752
2007年度	72	15	145	109	16	65	56	125	108	26	41	778
2008年度	59	18	137	134	12	78	40	161	148	30	55	872
2009年度	38	11	137	133	14	82	41	253	121	35	42	907
2010年度	45	25	170	138	22	85	46	322	163	25	34	1,075
2011年度	67	2	171	223	9	98	50	302	130	19	36	1,107
2012年度	47	6	140	175	7	153	58	389	137	6	82	1,200
2013年度	51	8	145	202	8	84	76	400	83	6	71	1,134
2014年度	75	11	23	221	6	81	112	438	77	8	113	1,165
2015年度	77	6	124	178	2	57	122	526	82	3	134	1,311
2016年度	79	3	46	312	2	28	165	456	145	2	109	1,347
2017年度	95	1	21	343	1	18	195	400	150	0	110	1,334
2018年度	84	0	12	319	0	7	254	482	87	0	110	1,355
2019年度	75	1	8	243	0	8	365	497	146	0	87	1,430
2020年度	52	0	4	301	0	1	425	433	132	1	82	1,431
2021年度	73	0	2	306	0	1	422	302	134	0	76	1,316
2022年度	116	0	1	300	0	1	419	264	173	0	86	1,360
2023年度</												

(3) 各臍帯血バンクからの供給本数

<年度集計>

年	日赤北海道		日赤関東甲信越					中部	日赤近畿	兵庫	日赤九州		合計
	日赤北海道	宮城	東京	日赤関東甲信越	神奈川 ^{*1}	東海大学	中国四国				日赤九州		
1996年度	0	0	0	0	1	(1)	0	0	0	0	0	0	1
1997年度	0	0	0	0	7	(3)	4	5	0	4	0	0	20
1998年度	5	0	6	2	21	(16)	6	16	0	18	0	4	78
1999年度	22	0	27	8	19	(10)	8	18	0	10	0	5	117
2000年度	33	0	39	18	8	(5)	12	39	0	19	5	4	177
2001年度	46	0	45	5	6		36	30	0	46	8	9	231
2002年度	65	1	46	33	6		60	34	0	47	12	6	310
2003年度	123	5	114	127	19		136	59	6	105	30	14	738
2004年度	110	12	82	113	32		149	40	25	62	29	25	679
2005年度	59	14	122	103	31		118	34	52	93	38	25	689
2006年度	70	16	138	118	32		126	52	71	78	27	45	773
2007年度	76	16	154	111	17		64	56	136	112	28	44	814
2008年度	66	18	145	140	13		77	40	165	158	35	56	913
2009年度	37	12	135	134	14		88	44	264	130	34	47	939
2010年度	47	24	177	143	23		91	43	323	172	27	33	1,103
2011年度	65	2	174	228	9		100	51	318	132	18	39	1,136
2012年度	53	6	142	176	8		157	62	401	147	6	79	1,237
2013年度	50	9	157	212	7		80	80	409	82	7	76	1,169
2014年度	75	11	16	222	6		85	116	467	79	7	115	1,199
2015年度	82	6	125	189	3		56	123	524	82	3	138	1,331
2016年度	82	3	47	323	1		30	168	470	157	2	106	1,389
2017年度	98	1	21	351	1		16	199	409	148	0	112	1,356
2018年度	87	0	13	324	0		11	262	483	90	0	110	1,380
2019年度	78	1	9	245	0		8	374	525	148	0	93	1,481
2020年度	50	0	4	309	0		0	432	445	134	1	80	1,455
2021年度	77	0	2	308	0		1	433	298	142	0	80</	

4 造血幹細胞移植の普及啓発事業の実施状況

(1) 骨髄バンク事業

ア 骨髄等ドナー登録事業

効果的なドナー登録の推進を図るため、県、保健所設置市、ボランティア団体、血液センター等が連携し、献血会に併せて骨髄等のドナー登録を受け付ける献血併行型骨髄等ドナー登録会を実施している（実績等は表1のとおり）。

イ 骨髄バンク事業推進連絡調整会議

県（薬務課・健康福祉事務所）、保健所設置市、（公財）日本骨髄バンク、兵庫県赤十字血液センター、ボランティア団体等の関係機関が、相互の連絡を密にし、より効果的な事業展開を行うため令和5年8月22日に開催した。

ウ 骨髄ドナー確保等活動支援金の実施【令和6年度交付要件変更】

骨髄等ドナー休暇制度等を導入した企業に10万円、骨髄等移植に関する普及啓発、社内講習会等を実施した企業に2万円を交付している（事業実績等は表2のとおり）。

エ 骨髄等移植ドナー助成事業

骨髄等移植に係る経済的・心理的負担を軽減し、移植事業の推進を図るため、県内市町が骨髄等を提供するドナーが提供に要した日数に対して事業に対して補助金（補助率1/2）を交付することにより、ドナー登録者の拡大と骨髄等の移植の推進を図る（事業実施状況等は表3のとおり）。

オ 骨髄バンク推進月間の実施（10月に全国一斉）

啓発ポスターの県内一斉掲示、リーフレットの配付を行う。

カ 大学生等を対象とした造血幹細胞移植推進特別講義

若年世代に対して、造血幹細胞移植についての正しい知識の取得と深い理解を求めるために、大学生を対象とした、大学生を対象にした講座開設による普及啓発を実施している（実績等は表4のとおり）

(2) 臍帯血バンク事業

臍帯血移植に関する正しい知識を妊産婦はじめ、広く県民に普及啓発するとともに、臍帯血採取技術の向上を図るため、次の事業を認定NPO法人兵庫さい帯血バンクに委託して実施する。

ア 臍帯血移植普及啓発資材の作成・配付

内 容：リーフレット	10,000 部
ポケットティッシュ	7,000 部
ポケットファイル（A5）	7,000 部

配布先：臍帯血採取協力医療機関、関係ボランティア団体 等

イ 臍帯血採取従事者・ボランティア合同研修会

内 容：臍帯血採取従事者の採取技術の向上と啓発・搬送ボランティア等の資質向上のための研修会を令和7年3月6日に実施予定。

(3) 骨髄バンク及び臍帯血バンク功労者に対する顕彰

(兵庫県献血推進協議会長感謝状の贈呈)

ア 選考基準

(ア) 5年以上にわたり骨髄バンク事業、臍帯血バンク事業の普及啓発等のボランティア活動等を積極的に行っている者

(イ) 5年以上にわたり骨髄バンクドナー登録に協力している団体で、次のいずれかに該当する者

- ① 当該団体に属するドナー登録者が毎年概ね15名以上であり、他の模範として認められる団体
- ② ドナー登録会の開催に、年2回以上協力しており、ドナー登録者が概ね年間10名以上であり、他の模範と認められる団体
- ③ 5年以上わたり臍帯血の採取協力医療機関として臍帯血バンクを支援している者

イ 令和6年度贈呈者数

団体 4

個人 3

【表 1】県内の骨髄ドナー登録者数（R 6 年度は 12 月末現在）

① 兵庫県内での献血併行型骨髄ドナー登録会での登録者数の推移

年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
実施回数	147回	138回	135回	75 回	111回	122回	152回	97回
登録者数	1,204名	1,079名	1,172名	459名	705名	716人	864人	674人

兵庫県赤十字血液センター集計

② ①のうち兵庫県主催分の登録会における登録者数の推移

年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
実施回数	39回	37回	37回	27回	30回	38回	31回	28回
登録者数	345名	329名	306名	185名	210名	243名	197名	220名

兵庫県薬務課集計

【表 2】勤労者の骨髄ドナー確保等活動支援金年度別交付事業所数

年 度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 12月末
事業所数	2	2	3	1	1	10

兵庫県薬務課集計

【表 3】 骨髓等移植ドナー事業補助金の交付

① 県内市町事業実施状況（令和 6 年 12 月 1 日現在 34 市町で実施）

開始年度	市町名
R 2	西宮市【1】
R 3	神戸市、姫路市、尼崎市、豊岡市、加古川市、川西市、三田市、養父市、朝来市、上郡町【10】
R 4	明石市、洲本市、赤穂市、南あわじ市、淡路市、宍粟市、稲美町、播磨町【8】
R 5	芦屋市、伊丹市、高砂市、小野市、丹波篠山市、加東市、たつの市【7】
R 6	相生市、西脇市、宝塚市、三木市、加西市、丹波市、多可町、佐用町【8】

兵庫県薬務課調べ

② 令和 3 年度補助実績

6 市に対して総額 1,220,000 円補助（対象者は 13 人）

③ 令和 4 年度補助実績

9 市に対して総額 3,530,000 円補助（対象者は 37 人）

④ 令和 5 年度補助実績

12 市町に対して総額 2,200,000 円補助（対象者は 23 人）

⑤ 令和 6 年度補助予定

15 市町に対して総額 3,920,000 円補助（対象者は 42 人）

【表 4】 大学生等を対象とした造血幹細胞移植推進特別講義

実施年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
実施校	6 校	5 校	6 校	5 校	6 校	5 校
受講者数	982 人	807 人	903 人	795 人	939 人	958 人

兵庫県薬務課集計

※ 令和 6 年度実施校

兵庫大学（加古川市）、神戸薬科大学（神戸市）、園田学園女子大学（尼崎市）、神戸学院大学（神戸市）、姫路市医師会看護専門学校（姫路市）

令和5年度大学生等を対象とした造血幹細胞移植推進特別講義実施結果

1 実施結果

7校 939 名が受講

【実施結果詳細】

実施年月日	実施大学等	学部等	受講者数	備考
令和5年6月28日	神戸市民間病院協会 神戸看護専門学校	2年生	77名	
令和5年7月7日	神戸薬科大学	薬学部1回生	270名	
令和5年10月6日	神戸学院大学	薬学部4回生	210名	
	神戸学院大学	栄養学部3回生	60名	10月6日の録画を聴講
令和5年10月12日	西宮市医師会看護専門学校	2年生	70名	
令和5年10月20日	姫路大学	看護学部4回生	85名	
令和5年12月14日	姫路市医師会看護専門学校	3回生	80名	
令和6年3月13日	丹波市立看護専門学校	看護専攻科1回生	87名	

2 講義内容等

- (1) 移植コーディネーターによる移植医療現場の状況等を踏まえた講義
講師 (公財) 日本骨髄バンク 小川 裕子
- (2) 患者による治療経験を踏まえた講義
講師 神戸骨髄献血の輪を広げる会 高橋 晶子
- (3) 医師による造血幹細胞移植の現状や治療等の講義
講師 NPO法人兵庫さい帯血バンク 甲斐 俊朗

3 アンケート結果 (回答数 441 名)

- (1) これまでに、骨髄ドナー登録についての知識の有無。

回 答	有り	無し
人 数	263 人	178 人
構成比	59.6 %	40.4%

- (2) これまでに、臍帯血提供についての知識の有無

回 答	有り	無し
人 数	72 人	369 人
構成比	16.3%	83.7%

- (3) 講義の満足度

回 答	参考になった	参考にならなかった	どちらともいえない
人 数	428 人	4 人	9 人
構成比	97.1%	0.9%	2.0%

- (4) 講義の内容

回 答	難しかった	わかりやすかった	どちらともいえない
人 数	11 人	371 人	59 人
構成比	2.5%	84.1%	13.4%

(5) 今後、希望する講義内容（複数回答可）

回 答	骨髄・臍帯血移植について	献血について	ボランティア活動について	患者団体について	その他
人 数	183 人	171 人	107 人	85 人	1 人
構成比	33.5%	31.3%	19.6%	15.5%	0.2%

その他：看護師として関わりについて

(6) 講義で興味深かった内容（自由記載）

別紙1のとおり

(7) 骨髄ドナー登録の意思

回 答	登録したい	前向きに考えたい	登録したくない	登録済
人 数	28 人	362 人	40 人	11 人
構成比	6.3%	82.1%	9.1%	2.5%

(8) （女性のみ）臍帯血提供の意思

回 答	提供したい	前向きに考えたい	提供したくない	わからない
人 数	107 人	225 人	9 人	47 人
構成比	27.6%	58.0%	2.3%	12.1%

(9) （男性のみ）パートナーに対しての臍帯血提供について

回 答	提供を勧めたい	提供は勧めない	わからない
人 数	12 人	5 人	36 人
構成比	22.6%	9.4%	67.9%

(10) 献血経験

回 答	有り	無し
人 数	85 人	356 人
構成比	19.3 %	80.7%

(11) （献血経験者のみ）献血したことのある種類

回 答	200mL 献血	400mL 献血	成分献血	不明
人 数	29 人	46 人	9 人	19 人
構成比	28.2%	44.7%	8.7%	18.4%

(12) （献血経験者のみ）献血しようと思ったきっかけ（複数回答可）

回 答	テレビ・新聞・ラジオでの呼びかけ	街頭や学校等での呼びかけ	住んでいる市町の広報誌での呼びかけ	ポスターやリーフレット等での呼びかけ	特にない	その他
人 数	4 人	37 人	7 人	9 人	18 人	22 人
構成比	4.1%	38.1%	7.2%	9.3%	18.6%	22.7%

その他：職場・学校・地域に献血車がきたから、親・友人・先生のすすめ、献血が好き
知人が白血病になった、人助けがしたい

(13) (献血未経験者のみ) 献血したことがない理由 (3つまで選択可)

回 答	人 数	構成比
受付をしたが、基準に達していなくて断られたから	58 人	9.0%
献血をしている場所に入りづらかったから	45 人	7.0%
どこで献血ができるかわからなかったから	21 人	3.3%
献血をする機会がなかったから	116 人	18.1%
時間がかかりそうだったから	75 人	11.7%
自分が献血をしなくても他の誰かがやと思ったから	15 人	2.3%
献血した血液が無駄にされていると聞いたことがあるから	1 人	0.2%
針を刺すのが痛そうだから	77 人	12.0%
健康上の理由でできないから	53 人	8.3%
薬を服用しているから	39 人	6.1%
恐怖心があるから	108 人	16.8%
そもそも献血をしたくないから	16 人	2.5%
その他	18 人	2.8%

その他：貧血気味だから、忙しいから、自己免疫疾患があるから
献血できる場所まで距離があるから

《 協 議 事 項 》

令和7年度兵庫県献血等推進計画（案）

前 文

病気や事故の際に必要な輸血や、白血病などの血液難病に有効な造血幹細胞移植（骨髄又は末梢血幹細胞（以下「骨髄等」という。）移植及び臍帯血移植）は、善意の提供者があって初めて成り立つ治療法である。

献血については、年間を通じて献血者を安定的に確保し、輸血用血液を医療機関に安定的に供給するとともに、特に若年層の減少が著しくなっていることから、将来に向け若年層への普及啓発を一層推進する。

また、造血幹細胞移植については、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の趣旨を踏まえ、移植希望者の早期移植の実現に向け、造血幹細胞移植のより一層の推進に努める。

さらに、本計画の推進にあたっては、阪神・淡路大震災や東日本大震災から学んだ教訓を活かし、人と人、人と地域の絆やつながりを大切に、県、各市町、日本赤十字社兵庫県支部、兵庫県赤十字血液センター、献血推進団体、公益財団法人日本骨髄バンク、認定特定非営利活動法人兵庫さい帯血バンク（以下「兵庫さい帯血バンク」という。）及びボランティア等が一体となって、県民の参画と協働を基本に取り組むものとする。

なお、この計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和 31 年法律第 160 号）第 10 条第 5 項の規定に基づく献血の推進に関する計画を包含するものである。

I 献血により確保すべき血液の目標量

国が定めた全国の確保量を基に、日本赤十字社が各都道府県と協議のうえ国の認可を受けて決定した配分によると、兵庫県の令和7年度に献血により確保すべき血液の目標量は91,845L（原料血漿確保目標量：48,977L）となっている。

県では、この目標量を確保するため、採血種類別の献血受付け者目標数、献血者目標数及び血液目標量を、下表のとおりとし、以下に掲げる事項等の実施により、県内全域の連携のもとに献血参加者の確保を図る。

但し、輸血用血液製剤の需要は日々変動することから、兵庫県赤十字血液センターは、血液製剤の日々の需給状況等を把握し、献血者数の調整に努めるとともに、近畿ブロック血液センターの広域的な需給管理のもとで献血の受入と供給を行い、血液製剤の更なる安定供給を図る。

(単位：人)

区 分	献血受付者数	献血者数
200mL献血	<u>2,800</u>	<u>2,608</u>
400mL献血	<u>162,100</u>	<u>146,006</u>
小 計	<u>164,900</u>	<u>148,614</u>
血漿成分献血	<u>41,200</u>	<u>37,143</u>
血小板成分献血	<u>24,200</u>	<u>21,790</u>
小 計	<u>65,300</u>	<u>58,933</u>
合 計	<u>230,200</u>	<u>207,547</u>

(単位：L)

血液量
<u>522</u>
<u>58,402</u>
<u>58,924</u>
<u>21,176</u>
<u>11,746</u>
<u>32,921</u>
<u>91,845</u>

※表示単位未満四捨五入の処理をしているため、小計・合計欄と一致しない場合がある。

また、将来にわたる血液製剤の安定供給を確保するためには、若年層の協力が不可欠であることから、平成29年度から10代、20代、30代の年間献血者数の目標値を都道府県ごとに定めている。令和7年度は下表とおり目標を設定し、その確保に向け重点的に取り組むこととする。

＜年代別献血者数目標＞

	10代（16～19歳）	20代（20～29歳）	30代（30～39歳）
献血者数	12,315人	33,587人	37,715人

Ⅱ 目標量を確保するために必要な措置に関する事項

1 献血思想の普及啓発、広報活動等

少子高齢化の進行による献血可能人口の減少、血液製剤を必要とする患者の増加や血液製剤の利用実態等について正確な情報を伝え、医療に欠くことのできない血液製剤が将来にわたって安定的に供給される体制を維持するために、若年層、企業・団体、複数回献血者をはじめ、広く県民に以下の取組を中心に普及啓発を行い、献血に対する理解と協力を求め、献血場所及び献血者の確保等を図っていくこととする。

(1) 献血推進キャンペーンの実施

ア 愛の血液助け合い運動（厚生労働省等と共催）

7月1日から同月31日の間、広く県民各層に献血思想の普及を図るとともに、特に400mL全血献血及び成分献血への理解と協力を求めるため、国、市町及び日本赤十字社との共催により、各地域の実情に応じた広報活動及び各種行事等を実施する。

イ はたちの献血キャンペーン（厚生労働省等と共催）

1月1日から2月28日の間、「はたち」の若者を中心として広く県民各層に対し献血への理解と協力を求めるため、国、市町及び日本赤十字社との共催により、学生等による自主的な街頭啓発や各地域の実情に応じた広報活動及び各種行事等を実施する。

(2) 学生献血推進イベント事業の実施

兵庫県学生献血推進協議会を中心とする学生ボランティアとの連携により、夏季及び冬季等において、学生ボランティアが中心となって企画した啓発イベントを実施する。

(3) 若年層への普及啓発

ア 高校生献血推進ボランティア事業の実施

次代の献血を担う高校生が、同世代からの呼びかけにより、身近なボランティアである献血への関心と理解を深めるとともに、地域における献血思想の普及啓発を図るため、高校生ボランティア有志が文化祭等の機会を活用し、地域献血推進団体等とともに、献血啓発イベント（献血啓発コーナーの設置によるパネル展示等）を展開する。

イ 献血セミナーの実施

兵庫県赤十字血液センターは、献血の意義や血液製剤について楽しく学べる「献血セミナー」を、高校生、専門学校生、大学生を対象に実施する。さらに将来の献血協力者育成の観点から、親子献血セミナーや小中学校での献血セミナーなど、幼少期への啓発にも努める。また、セミナーの機会を活用し、献血Web会員サービス「ラブラッド」への登録を働きかける。

ウ 高校生・大学生献血の推進

若いうちに献血を経験することが、その後の献血行動により効果をもたらすと言われていることから、理解の得られた高校・大学等に献血バスを配車して献血会を開催する。また、卒業式に合わせた卒業献血など、献血ができる機会の提供に努める。

エ 小学校・中学校・高校・大学・専門学校等・企業への働きかけ

県及び市町は、兵庫県赤十字血液センターと連携し、教育委員会及び高校・大学・専門学校等に献血啓発事業に関する情報提供を行い、協力を働きかける。また、次世代の献血者確保に向け、献血可能年齢より若い年齢層である小学生・中学生に対しても、献血への理解を促すよう努める。

兵庫県赤十字血液センターは、企業等に対して、社員研修や社内広報等の機会

を利用して「献血セミナー」や献血に関する情報提供等を実施し、正確で理解しやすい情報の伝達を図るとともに、特に20代、30代の若年層労働者の献血促進について協力を求める。

(4) 広報誌（紙）、ラジオ、テレビ等による広報

献血キャンペーン等の時期に合わせ、県及び各市町の広報誌（紙）に広報記事を掲載するとともに、県が提供するテレビ・ラジオ番組及び各市町の広報メディア（有線放送、ケーブルテレビ、インターネット等）を活用し、献血参加の呼びかけ及び献血思想の普及啓発を行う。

兵庫県赤十字血液センターは、オンラインでのセミナー開催や、X、Instagram等のSNS等を活用した情報発信を効果的に行い、若年層の献血推進を図る。

(5) 啓発資材等の作成

献血に関する正しい知識の普及と献血への参加を呼びかけるため、啓発資材等を作成し、イベント会場等で配布する。なお、作成にあたっては、パソコン、タブレット等による利用にも留意する。

(6) 職場における献血の推進

輸血用血液製剤の安定供給を図るため、官公庁及び企業等における職場献血を推進するとともに、緊急的に計画外献血を実施する必要がある場合には、積極的な協力を求める。特に、血液の確保が困難となる年末年始の時期には、官公庁及び企業等に対し一層の協力を依頼する。

また、兵庫県赤十字血液センターは、官公庁及び企業等に対して、「献血セミナー」を実施し、正しい知識の普及啓発を図り、職場献血において、特に20歳代・30歳代の献血促進について協力を求める。

なお、兵庫県赤十字血液センターは、職場献血の実施にあたって、受付時間の調整等、職員が参加しやすい環境づくりに努める。

(7) 複数回献血の推進

輸血用血液製剤の安定供給を図るとともに、特に需要の高まっている成分献血への協力者を増やすため、兵庫県赤十字血液センターは、WEBでの献血予約可能な「ラブラッド」への加入促進に努めるとともに、献血の予約実施が会場の混雑回避等、感染対策として有効であることを広く周知し、安心安全な献血環境の保持に努める。

また、献血バスでの献血者を献血ルームに再来するよう促す方策にも取り組む。

(8) 200mL全血献血の在り方

県、市町、兵庫県赤十字血液センターは、医療機関からの需要、血液製剤の安全性の観点から、献血を推進する上では、400mL全血献血及び成分献血を推進する。

しかしながら、将来にわたる献血協力者の確保という観点からは、若い時期の献血経験が重要であることから、兵庫県赤十字血液センターは、高校生等の初回献血時には、献血に関する正しい情報の提供を行うなど、献血者に安心・安らぎを与える環境作りに努めるとともに、医療需要を踏まえた上で200mL全血献血による受入れを行い、できる限り献血を経験してもらうよう努める。

(9) 献血者等へのアンケートの実施

効果的な普及啓発活動を行うため、上記高校生献血ボランティア事業や献血セミナー実施等にアンケート調査を実施し、その結果の解析を行う。

2 献血時の健康管理サービスの充実

兵庫県赤十字血液センターは、献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知する。

3 献血推進組織の育成に関する事項

(1) 市町献血推進協議会等の運営

市町は住民参加の血液確保対策を推進するため、市町献血推進協議会等を計画的に開催し、血液事業の現状に立脚して、次の事項その他についての対策を協議決定し、その実行を図る等の実質的な運営に努める。

ア 献血計画

イ 献血会の育成強化対策（協議会委員の関係団体における対策を含む。）

ウ 住民の献血思想の普及を図るための広報活動対策

(2) 市町等担当者の研修

県及び兵庫県赤十字血液センターは、各地域の献血会及び協力団体等からの窓口となる各市町及び県健康福祉事務所（保健所）の担当者が、血液事業について共通理解を深め、住民に必要な情報提供を行い、的確に相談に応じることが出来るよう、献血推進担当者会議等を活用して研修を行う。

4 献血功労者等の顕彰（表彰及び感謝）

(1) 兵庫県献血推進協議会長感謝状の贈呈

献血運動の推進に特に顕著な功績を示した献血功労団体等に対し、兵庫県献血推進協議会長から感謝状を贈呈する。

(2) 厚生労働大臣表彰状及び感謝状の推薦及び伝達

献血運動の推進に特に顕著な功績を示した献血功労団体等について、厚生労働大

臣に推薦を行うとともに、表彰状及び感謝状の伝達を行う。

Ⅲ 血液製剤の適正使用等の推進

輸血療法の専門家で構成する兵庫県合同輸血療法委員会（事務局：兵庫県赤十字血液センター）、兵庫県赤十字血液センターと連携協力して、県内医療機関の輸血医療従事者を対象に、安全かつ適正な輸血療法の推進と血液製剤の適正使用等の推進を図るための研修会を開催する。

Ⅳ 骨髄等ドナーの確保及び臍帯血の質の向上

1 現状

(1) 骨髄バンク事業

公益財団法人日本骨髄バンク（前身：財団法人骨髄移植推進財団）が設立されて34年が経過し、同バンクを通した非血縁者間骨髄等移植に用いられた骨髄等採取数は令和6年12月末現在、全国で29,236件に上っている（そのうち、平成22年度から幹旋業務が開始された末梢血幹細胞移植は2,376件）。

また、同バンクへのドナー登録者数は、令和6年12月末現在、全国で562,867人、兵庫県内で20,620人に達している。

しかしながら、移植を希望し骨髄バンクに登録した年間患者数に対し、移植を受けられる率は59.6%にとどまっており、移植希望者への早期移植の実現に向け、一人でも多くのドナー登録者を確保する必要があるため、積極的に骨髄等のドナー登録を推進している。

また、ドナー候補者に選ばれたドナー登録者が都合により骨髄提供に至らないケースが見られることから、骨髄提供しやすい環境づくりが課題となっている。

(2) 臍帯血バンク事業

臍帯血バンク事業は1997年（平成9年）に始まり、全国でこれまでに移植に用いられた臍帯血は令和6年12月末現在25,172本に上っている。また、移植用に公開されている保存臍帯血は同時点で約10,188本となっている。

本県には、全国6か所の公的臍帯血バンクのひとつである兵庫さい帯血バンクがあり、21か所の臍帯血採取協力医療機関及び搬送・説明ボランティアの協力のもと、臍帯血バンク事業を展開している。同バンクは、安全で良質な臍帯血の提供に向け、

採取協力医療機関の確保と採取技術の向上、調製保存作業手順の見直し、妊婦をはじめ県民へのさらなる普及啓発に努め、造血幹細胞移植の一層の推進に取り組んでいる。

2 推進方策

(1) 骨髄等ドナーの確保

ア 献血併行型骨髄等ドナー登録会の開催

効果的なドナー登録の推進を図るため、市民イベント及び企業・官公庁・大学等で実施される献血会に併せて、献血併行型骨髄等ドナー登録会の開催を積極的に推進する。

特に、ドナー登録期間が長い若年層ドナーの登録を推進するため、大学・専門学校や若年層の多い献血会場など、新規の登録会場の開拓に努める。

イ 骨髄バンク説明員体制の充実

ドナー登録を呼びかける説明員の確保充実を図るため、ボランティア団体と連携し、説明ボランティアの募集、養成を行う。

また、献血ルームや献血バスにおいてもドナー登録が円滑に行われるよう、兵庫県赤十字血液センター職員の骨髄等移植に関する知識習得を進める。

ウ ドナーが骨髄提供しやすい職場環境づくり

平成 29 年度から実施している骨髄ドナー確保等活動支援金制度を周知し、ドナー候補者に選ばれたドナー登録者が骨髄提供しやすい職場環境づくりを企業等に働きかける。

エ 骨髄等移植ドナー助成事業の推進

骨髄等を提供した者に対する助成に要した市町の経費に対して、県がその 1/2 を支援する骨髄等移植ドナー助成事業の普及を進め、県内市町の助成事業実施を促進することにより、ドナーの負担軽減及び、ドナー登録者の確保と移植率の向上を図る。

(2) 臍帯血に係る研修会の開催

ア 臍帯血搬送・啓発ボランティア等研修会の開催

臍帯血の搬送及び普及啓発ボランティアの研鑽並びに活動発表の場となる研修会を開催する。

イ 臍帯血採取技術研修

臍帯血採取従事者（産科医師、助産師等）を対象に、より細胞数の多い臍帯血の確保を図るため、採取技術向上を目的とした研修会を開催する。

(3) 造血幹細胞移植に関する普及啓発の充実

ア 造血幹細胞移植推進特別講座の開催

造血幹細胞移植の推進を図るためには、若年層のドナーを確保することが重要であることから、大学生等を対象に造血幹細胞移植に関する講演会等を開催する。

なお、講演会等においては、献血啓発等も併せて行い、将来の献血基盤の確保に努める。

イ 高校生等を対象とした啓発セミナーの実施

兵庫県赤十字血液センターが行う「献血セミナー」に、骨髄等移植に関する基礎知識を加えることにより、若年層に対する啓発に努める。

ウ 企業を通じた普及啓発の促進

ドナー登録年代の勤労者を擁する企業による普及啓発活動を支援する。

エ 妊産婦等に対する普及啓発

臍帯血を安定的に確保するため、妊産婦のほか広く県民に対して、啓発資材を作成・配布し、臍帯血移植に関する普及啓発を行う。

(4) 骨髄バンク及び臍帯血バンク事業推進功労者の顕彰

ア 兵庫県献血推進協議会長感謝状の贈呈

骨髄バンク及び臍帯血バンク事業の推進に顕著な功績のある団体等に対し、兵庫県献血推進協議会長から感謝状を贈呈する。

イ 厚生労働大臣感謝状の伝達

臍帯血移植の治療成績向上に大きな功績のある施設に対して贈呈される、厚生労働大臣感謝状の伝達を行う。

(5) 兵庫さい帯血バンクへの支援

兵庫さい帯血バンクに対し、移植に適した安全で有核細胞数の多い臍帯血の安定的な確保のための支援を行うとともに、同バンクが研究用臍帯血の提供等により、再生医療の発展に寄与していることを PR することで、医療機関、関係団体及び県民の臍帯血バンク事業に対する理解を深め、幅広い協力を呼びかける。

V その他

1 血液製剤の安全性の向上に関する取組

血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、HIV等の感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、広く県民に周知徹底を図る。

2 災害時等における輸血用血液の確保

阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓を踏まえ、災害時や新興・再興感染症のまん延下の状況においては、必要な輸血用血液を適切かつ迅速に確保するため、兵庫県赤十字血液センターが取り組む、安心・安全な献血環境の保持や、献血者の感染防止対策を支援するとともに、関係機関と十分な連携を図り、必要とされる献血量を把握した上で、報道機関等の協力を得て様々な広報媒体を活用して積極的な献血を呼びかける。

なお、確保された血液については、兵庫県赤十字血液センターの機能を十分に活用するとともに、日本赤十字社兵庫県支部と連携を図り、医療現場への円滑な供給を図る。

令和7年度 献血受付者目標数について

1 目標数設定の考え方

県民医療に必要な輸血用血液の安定確保、並びに、血漿分画製剤用原料血漿の確保目標量（都道府県割当量）の達成

2 令和7年度において必要な献血人員と血液量

- 必要とされる血液量 **91,845 L (※)**

(※) 厚生労働省より提示された全国の必要量を、日本赤十字社において調整し、都道府県と協議して決定

- 必要とされる献血者数

輸血用血液製剤の需要見込みと原料血漿の確保目標量から、献血者数を算出
(近畿ブロック血液センター作成資料のとおり)

- 必要とされる献血受付者目標数

受付者目標数は、必要献血者数に、過去3か年の問診及び血色素検査等により献血出来なかった率（献血不適格者率）を逆算して算出した。

	献血受付者数	必要献血者数
200mL献血	2,800 人	2,608 人
400mL献血	162,100 人	146,006 人
血漿成分献血	41,200 人	37,143 人
血小板成分献血	24,100 人	21,790 人
計	230,200 人	207,547 人

参考:算出根拠

過去実績(R3～R5年度)

	献血 受付者数(a)	献血者数(b)	適格者率
R3	240,424	216,567	0.90077114
R4	238,690	214,880	0.90024718
R5	234,236	210,885	0.90030994
計	713,350	642,332	0.90044438

R7年度献血受付者目標数の算出

	目標 献血者数(x)	適格者率(y)	献血受付者 目標数(x÷y)	10の位 切り捨て
200mL	2,608	0.90044438	2,896	2,800
400mL	146,006	0.90044438	162,149	162,100
血漿成分	37,143	0.90044438	41,250	41,200
血小板成分	21,790	0.90044438	24,199	24,100
計	207,547		230,494	230,200